

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|-------------------|
| 事業所番号 | 1472201670 |
| 法人名 | 株式会社 湘南みどり園 |
| 事業所名 | グループホーム 花樹 |
| 訪問調査日 | 平成20年7月28日 |
| 評価確定日 | 平成20年9月23日 |
| 評価機関名 | 社団法人かながわ福祉サービス振興会 |

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月30日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|--------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 1472201670 | | |
| 法人名 | 株式会社 湘南みどり園 | | |
| 事業所名 | グループホーム 花樹 | | |
| 所在地 (電話番号) | 藤沢市柄沢 372 (電話) 0466-26-6612 | | |
| 評価機関名 | 社団法人かながわ福祉サービス振興会 | | |
| 所在地 | 横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年7月28日 | 評価確定日 | 平成20年9月23日 |

【情報提供票より】 20年7月28日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-------------------------|--------|
| 開設年月日 | 平成 16 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 19 人 | 常勤 10 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 | 11.3 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-----------------|--|--|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 2階建ての 1階 ~ 2階部分 | | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 55,000 円 | その他の経費(月額) | 45,000 円 | |
| 敷金 | 有(150,000 円) | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(350,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 1,300 円 | | | |

(4) 利用者の概要(7月28日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 15 名 |
| 要介護1 | 8 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 5 名 | 要介護4 | 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 85 歳 | 最低 | 69 歳 | 最高 | 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------------------------|
| 協力医療機関名 | 湘南柄沢クリニック、藤沢病院、カリス歯科クリニック、湘南なぎさ診療所 |
|---------|------------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは藤沢駅からバスにて約10分の新興住宅地にあり、周りは一般住宅と造成地の静かな環境である。平成16年4月に開所した2ユニットのホームで、建物内部は明るく、換気装置やエレベーターもある。
医療連携体制加算の指定を受け、協力医療機関の内科医とホームの看護師・職員の連携がとれている。重度化した場合の対応を利用者・家族に説明し、安心して終末期の医療サービスを利用できる体制づくりに努めている。
運営法人はガーデニング専門学校の運営者で、平成15年に文部科学省から園芸療法の研究の指定を受けた。園芸療法は、草花や野菜づくりに親しむことを心と身体のケアにつなげ、身体機能回復を図るもので、利用者は、ホーム内の庭で種まきから植え付け、水やりを行っており、それらをとおして生き物への共感を覚え、生活を送る上で大変重要な役割を果たしている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価は、平成19年9月に受審した。評価結果をもとに、重要事項説明書の「事業所の概要」欄に新しい理念「ゆったりのこころ」を書き加え改善している。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、職員に評価の意義や目的を説明し、自己評価用紙を配布した。自己評価は、管理者と計画作成者が職員の意見を盛り込み作成した。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、定例的に2~3ヶ月に一度開催しており、地区民生委員、介護相談員、利用者家族の代表者の方が出席している。会議では、ホームの課題や行事、運営内容、園芸療法などを説明し、意見交換を行っており、地域の理解や支援を得るための貴重な会議となっている。</p> |
| 重点項目 | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情や相談窓口は、重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。家族が来訪した際や誕生会、クリスマス会などで苦情や要望・意見が寄せられた時は、迅速に対応し、ホームの運営面に反映するように努めている。</p> |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入し、一日清掃、盆踊り会、防災訓練に参加して交流を深めている。また、地域のボランティアの方が庭の草花や野菜の草むしりに来訪しており、利用者とのコミュニケーションを図る機会となっている。買い物時や回覧板の受け渡し時に地域の方と話し合ったり、敷地内にゴミ集積所を設置することなどを通して、利用者も住民の一員として共に暮らし、支え合って日々の生活を送っている。</p> |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|--|-------|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 利用者一人ひとりが生きがいを感じる生活ができるように「ゆっくりのこころ」を理念として掲げている。職員のペースでなく、利用者の心に合わせて「ゆっくり」から「ゆったり」の心のこもった温かい介護をめざしている。 | | |
| | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は事務室に掲示し、職員は、日々のサービスを提供する場面において、理念を意識ながら介護・介助に取り組んでいる。運営者は、入職時に理念を配布・説明し、理念の浸透と共有化に努めている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の一員として自治会に加入し、自治会主催の一日清掃、地域の盆踊り会、防災訓練などへ参加している。また、敷地内にゴミ集積所を設置したり、散歩時に声かけをするなど地域の方とふれあいを持ちながら暮らしている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者は、評価の意義とねらいを理解し、自己評価票を職員全員に配布して内容の周知を図った。自己評価票は、各職員が記入し、それを管理者と計画作成担当者などがまとめた。外部評価の結果は全職員が閲覧し、評価項目から気づきを得て、日常の介護・介助の取り組みにも活かすように努めている。 | | |
| | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は定例的に開催しており、第6回目は平成20年7月に実施している。メンバーは地区民生委員、介護相談員、利用者家族の代表、行政などである。会議は、ホームの行事や取り組み、運営内容、園芸療法の内容などを出席者に説明したり、意見交換を行って理解と支援を得る貴重な機会となっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|-----|----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 管理者は行政の担当部署へホームの運営や現場の実情、業務上の問題点などを報告し、助言や指導を仰いでいる。地域のグループホーム連絡会に参加した際も、行政の方と情報交換したり指導を受けている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 利用者の暮らしぶりや健康状態などは、家族の来訪時に声を掛けて話し合っている。体調の変化時には、早急に家族に電話してその状態を連絡している。小口現金の取り扱いは、ホームが立て替え払いし、後日、保険請求の明細報告と一緒に領収書を家族に送付して精算している。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情や要望などの窓口担当は、入居時に重要事項説明書を説明する際に伝えている。2～3ヶ月毎の運営推進会議と年1回開催の家族会では、家族からの意見・要望などを話し合う機会を設け、運営面に反映するように努めている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 開所後5年目を迎えているが、ここ1年は常勤職員の離職がなく、利用者との馴染みの関係が保たれ、継続して支援が行われている。管理者は、職員がゆっくりと落ち着いて介護・介助にあたるためには働きやすい職場作りが大切と考え、休暇の希望や勤務シフトをできるだけ受け入れ、協働する環境づくりに努めている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者は、職員の質の確保、向上に向けた育成が重要であることを理解し、常勤・非常勤の区別なくホームの負担で外部研修への参加を積極的に勧めている。研修希望者には勤務シフトを調整し、受講ができるように配慮している。介護関係の資格取得者を多く輩出し、介護・介助のレベルアップにつながっている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域のグループホーム連絡会は2ヶ月に一度開催し、当ホームが事務局になっている。年に3～4回の研修会も行い、その際に関係者と情報交換し、お互いに協力関係を深めるように努めている。 湘南東地区ブロック研修会にも参加している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>家族等がホームを見学したり、電話での相談を受けた後、職員2名が自宅を訪問している。入院中の方は病院に向いて希望者本人・家族と話し合い、ホームの内容を説明している。また、要望があれば、2～3日の体験入居が可能で、体験入居後そのまま入居となったケースもある。本人がサービスの場に徐々に馴染み、日々の暮らしに移っていけるように支援している。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>利用者は、掃除や洗濯物を干す・たたむ、料理の野菜刻みの手伝い、配膳、後片づけ、ゴミ出し、草むしり、水やりなどを率先して行っている。また、趣味としては、習字、ぬり絵などを行っている。職員は、利用者と一緒に和やかな生活ができるように、お互いが思いやりを持って支え合って暮らすように努めている。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>職員は利用者の願いや思いなどを行動や会話の中から汲み取り、暮らし方の希望や意向の把握に努め日頃の介護・介助にあたっている。帰宅願望のある人に対して、家族と話し合い一度帰宅してもらったケースがある。その後、その方がもう一度ホームに戻った際は、「やはり夜も誰かがいてくれるので安心して、気ままに暮らせてよい」との思いであった。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>介護計画書は利用者の思いや意向、家族の意見や要望をアセスメント表に記入している。ケース会議を開き、管理者・計画作成担当者が話し合いをしてサービス担当者会議記録などを作成している。</p> <p>家族の来訪時に計画の内容について説明し、確認後署名をもらい渡している。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>介護計画書は、通常は3ヶ月毎に、生活が安定すると6ヶ月毎に見直しをしている。利用者が転倒したり、入院後ホームに戻ってくる場合など状態が変化した場合は、医師や看護師と相談し、本人や家族と話し合い、随時見直しを行っている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制加算の指定を受け、利用者・家族の同意を書面にて得ている。協力医療機関の内科医が2週間に1回訪問診療に訪れるほか、週に1回看護師の訪問があり、24時間医療機関との連絡体制をとって、安心して適切な医療処置を受けることができる。また、近隣の歯科で歯科治療や口腔ケアを受けたり外出するなどの柔軟な支援をしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の受診は基本的には家族にお願いし、受診後はその結果を報告してもらい連絡ノートに記入し、情報の共有化を図っている。かかりつけ医がない場合は、協力医療機関の往診内科医による訪問診療と看護師による健康管理・相談もできる医療体制を採っている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 平成19年10月に看取りを行った。初めてのケースで職員には不安があったが、内科医・看護師と職員の連携で終末期を看取ることができ、貴重な体験となった。重度化した際の24時間医療対応や看取り、終末期のあり方や考え方については、初期の段階から本人・家族と話し合いを行い、職員は方針を共有している。 | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員とは、入職時に雇用契約と同時に守秘義務の誓約書を交わしている。職員は、個人情報保護法を理解しており、意識の向上が図られている。利用者のプライバシーを損なわない言葉掛けや対応に配慮している。個人記録等は施錠のできる事務所ロッカーに保管し、その取り扱いには十分に留意している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 毎日の日課はあるが、利用者の希望を尊重し、体調にも配慮し、利用者のペースに合わせ、ゆったりとした生活リズムを考えながら、趣味のぬり絵や習字、草花の水やり、草むしりなどしながら過ごしている。家族との話し合いにより、夜食のおにぎりを準備して、食べたいときに食べられるように配慮もしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は、利用者の希望を取り入れている。庭で収穫した野菜を多くとり入れた食事を利用者と職員と一緒に作っている。利用者は、下処理、盛りつけ、お茶出しを行い、職員と同じ食卓を囲んで食事を楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は、原則として週2～3回以上入浴できるように支援している。希望があれば利用者の体調に合わせた入浴時間に入浴できるようにも配慮している。入浴をいやがる人にはタイミングを見計らって声かけし、清拭や足浴を行っている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者は、毎日の暮らしの中で食後の食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみ等できることは自分で行っている。職員は、利用者の張り合いと自信につながるよう見守りながら一人ひとりに役割を見つけ、支援している。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 職員は、利用者が日常生活の中で、近くに散歩に出掛けたり、食材の買い物をし、季節感を肌で感じることができるよう支援している。また、時には職員と江ノ島までドライブをしたり、大相撲藤沢場所観戦、歌舞伎の観賞など利用者の体調に配慮しながら外出を楽しめる機会を作っている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 管理者や職員は利用者の安全を確保しながら、昼間は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。夜間は防犯上施錠している。2階の階段近くのフロアー入り口は、外出傾向のある利用者がいることから安全面を考慮して家族の了解の上施錠している。居室の鍵は本人の希望に任せ、自由な暮らしを支援している。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 防災・避難訓練は定期的実施している。平成19年9月には消防署の指導を受けながら地域の方にも参加してもらい実施した。災害用の飲料水や缶詰などの非常食、スコップなどの防災器具も備蓄している。火災発生時の対応マニュアルは整備されているが、今後は車いすの方の避難・誘導方法を検討する予定である。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|--|--|-----|--|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は職員が献立表を作成している。新鮮な野菜と湘南の海の地魚を食材として取り寄せて、利用者の好きなメニューを考えながら美味しい食事作りに努めている。食事量や水分摂取状況は介護記録に毎日記入し、一人ひとりの健康状態の把握に努めている。栄養バランスは食品衛生責任者がチェックしている。 | | 食事のおおよそのカロリーを把握するため、献立表を基に、栄養士、保健師などからチェックやアドバイスを受けるとなお良い。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間は、広い窓から四季折々の訪れを感じる草花が見られる。また、快適に過ごせるようにテーブルやソファ・テレビなどを配置し、明るい居心地のよい雰囲気となっている。壁面には、利用者と職員が共同で作成した季節行事の描かれた文字の大きなカレンダー、盆踊りの写真、季節感のある題材の習字の作品などが飾られている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には整理タンス、テレビ、家族の写真、仏壇などが持ち込まれ、一人ひとりの個性あふれる落ち着いた雰囲気となっている。利用者や家族の希望で畳を敷き、洋室を和室に替えて入居前と同じ環境で居心地よく過ごしている方もいる。また、好みの草花の鉢を育て、きれいに飾る方もいる。 | | |

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| ・理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| ・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| ・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| ・サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|--------------|
| 事業所名 | グループホーム花樹 |
| (ユニット名) | 一階 |
| 所在地 (県・市町村名) | 神奈川県藤沢市柄沢372 |
| 記入者名 (管理者) | 鈴木 京子 |
| 記入日 | 平成20年7月8日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------|--|---|-------|----------------------------------|
| ・理念に基づく運営 | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | |
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域の雰囲気を大切にし調和のとれた生活が送れるよう「ゆっくりのこころ」という理念を掲げている。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 全職員に代表者が個別に理念を配布、説明、理念の共有をしている。さらにいつも目にする玄関入り口に基本理念を貼ることで職員の意識を深めている。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 定期的に家族会、運営推進会議を開き、深めてもらえるよう取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | |
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 散歩などの機会に近隣の人達と挨拶し気軽に話ができている。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会、地域の清掃活動、防災訓練等に参加するなどして交流に努めている。ゴミステーションを敷地内に設置し地域に貢献している。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 村岡地区の公民館で社会福祉協議会等の方々と災害時における高齢者救護策について意見交換実施。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員が自己評価を行うことにより意識向上につながっている。外部評価の結果を職員全員が閲覧し、よりよいホームにするため改善策も早急に対処していけるよう取り組んでいる。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議で出た意見は会議及び連絡ノートで、職員の周知徹底を図り、話し合いの機会を設けている。 | | |
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 管理者等が市町村に行く機会を作ったり、相談するなどしながらサービスの質の向上についても話し合いをするなどしている。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 職員全てが理解できているか再確認する必要がある。 | | 意識を高めるよう研修、会議などの充実を図る。 |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日々職員間で話し合い防止に努めている。 | | 虐待防止のための研修、勉強会へ積極的に参加していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|---|-----|----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | <p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | 十分説明を行い理解、納得を図っている。変更時にも十分説明している。 | | |
| 13 | <p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | 苦情申し立ての機関を重要事項に明記し、契約時に説明をしている。 | | |
| 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | 家族会やご家族の来訪時、利用者の状態の変化に応じて随時報告している。 | | |
| 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | 苦情申し立ての機関を重要事項に明記し、契約時に説明をしている | | |
| 16 | <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | 日々の申し送りや全体会議等の場にて運営者や管理者は積極的に職員の意見を聞くよう努めている。 | | |
| 17 | <p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | 利用者の状況の変化に応じて職員の勤務時間を変更するなど可能な範囲内での勤務調整に努めている。 | | |
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | 離職者や産休中の職員が気軽に遊びに来るなどしてもらおうようにして、異動や離職によるダメージを防ぐよう配慮している。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|-----|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各研修案内を随時提示し、職員へ参加を呼びかけているが参加の頻度は高いとはいえない。各職員の資格取得への意識が高く、職場としてもシフトを優遇するなど協力した。結果新たに介護福祉士3名、介護支援専門員2名、社会福祉士1名誕生した。 | | |
| 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域のグループホーム連絡会に定期的に参加し交流しており、情報共有、研修会に職員が参加するなどしてサービスの質の向上を図っている。 | | |
| 21 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 運営者はまめに管理者や職員とコミュニケーションをとるなど話し合いの場を設けている。 | | |
| 22 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 管理者や職員に対し、自ら集めてきた研修の情報などを積極的に周知し、参加促している | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 事前面接や体験入居を通して本人の訴えや不安を受け止める努力をし、安心して利用してもらうよう努めている。 | | |
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 相談時から事前面接の機会等にて家族の不安、求めていることに対し、親身に受け止め信頼関係を築くことができるよう努めている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|-----|----------------------------------|
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族の要望を聞き、在宅介護、グループホーム、またはその他社会資源で何が必要であるか、客観的に見極め対応し、必要時他のサービスを勧めたり、紹介することもある。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人に事前面接にて説明、納得してもらい、さらに体験入居をしてもらうことにより雰囲気馴染んだ上で利用を開始してもらうよう配慮、工夫している | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日々の生活の中で一緒に食事を作ったり、掃除をしたりなど、職員と利用者が共に生活を支えているという関係づくりができています | | |
| 28 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 利用者本人がグループホームで落ち着いて楽しみのある生活を送れるようまめに面会に来てもらったり、受診を支援してもらうなどして職員と共に支えあう関係を築いている。 | | |
| 29 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 本人や家族から細かい生活歴などの情報収集をし、本人や家族だけではなく、友人、親戚などとの関係にも理解を深めるよう努めている。 | | |
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人や家族とのコミュニケーションを通して馴染みの人や場所への理解を深め、継続できるよう支援している | | |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 利用者同士の相性、個性を把握し、孤立しないよう意識し、努めている。レクリエーションや園芸療法など積極的に行っている。 | | 個々の利用者同士のトラブル防止の解消に努めていく |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | サービス終了後も面会に行ったり、電話などにて相談に応じるなどして断ち切らないつきあいをし関係を継続している。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活において常に本人の意思、希望を優先したケアを行っている。体調や疲労感も配慮している。 | | |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の事前面接にてアセスメントを行い、生活歴、生活環境、サービス利用の経過等把握するよう努めている。 | | |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 個々の利用者ごとに一日の様子を記録し、申し送りや連絡ノートを活用などにより職員間で情報の共有を図っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人、家族の意向を十分に取り入れた介護計画を作成している。 | | |
| 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 期間終了、状態変化に合わせて随時見直し、説明をして同意を得て交付をしている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|---|---|-----|----------------------------------|
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々の利用者ごとに一日の様子を記録し、さらに日々の中で職員が気づいた点を連絡ノートに記録して情報を共有し、それを集約し介護計画に反映させている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 事業所グループ内のガーデンデザイン専門学校、小規模多機能施設と連携をとっている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 民生委員、ボランティア、警察、消防などと協力しながらグループホームを運営している。ボランティアではアロマセラピーやハーモニカ演奏、園芸等で協力・活躍してもらっている。 | | |
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 地域のグループホーム連絡会の場で話し合いをしている。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 現在、協働できていない | | 地域包括支援センターと協働できるよう努めていく |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 往診医療を取り入れ受診援助を行っており、緊急時にも主治医の指示を仰ぐことのできる体制をとっている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-----|----------------------------------|
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 主治医と相談し、必要のある利用者には専門医の受診援助を行っている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 定期的に看護師がホームにて日常の健康管理等支援している | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | マメに見舞いに行くなどして病院職員、家族との情報交換や相談に努め不安を感じないよう支援している。 | | |
| 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 契約時より重度化した場合での本人、家族の希望について話し合いをしている。利用者の状態変化時にも主治医、家族、本人と話し合いをしている。職員間でも全体会議の場を通して終末期ケアに対するホームの方針を共有している。 | | 終末期ケアについての研修をこれから多く取り入れていきたい。 |
| 48 | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 主治医、看護師との連携を密にしながら往診の数を増やすなど柔軟な対応をとり状態の変化にも対応できるようにしている。 | | 会議などの話し合いの場を増やして職員の意識を高めていく。 |
| 49 | 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 転居時には関係者間で話し合いや情報交換を行い、ダメージを防ぐよう努めている。 | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|----------------------------------|
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけ、対応をし、記録等もプライバシーに配慮した取り扱いをしている。 | |
| 51 | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 常に利用者の希望を聞き、個々に応じて可能な限り対応している。 | |
| 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者個々のペースを大切に、希望にそった日々を送ることが出来るよう支援している。 | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 家族対応や職員付き添いで美容院へ行ったり、訪問美容を受けるなど支援している。 | |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員と利用者が庭で育った野菜と一緒に収穫し、食事を作ったり、片付けなどしている。 | |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 飲み物、おやつは対応しているが、たばこ、お酒は好まれる方がいない。一緒に買い物へ行きおやつなどを選んでもらったりしている。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄パターンを把握し声掛け、誘導などを工夫するなどして対応し、オムツの使用を極力減らすよう努力している。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人の希望に合わせた入浴時間で実施している。また入浴できない時は清拭や足浴を行い、清潔保持に努めている。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 本人の意思により自由に居室に出入りし、睡眠や休息をとることができるよう支援している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 日々の中での仕事をなるべく利用者が積極的に参加、分担できるよう支援している。 | | |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人、家族と相談し、本人の管理可能な範囲内で所持、使用されている。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 施設周辺の散歩、買い物、ドライブなど日常的に外出できるよう支援している。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 個別的に相撲観戦や歌舞伎などの観賞を支援したり、家族と一緒に外出できるよう働きかけたりしている。こうした劇などの情報を市の便り、タウンニュースなどで情報を得ている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|---|-----|---|
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望に応じて電話、手紙のやりとり等ができるよう支援している。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 日常的にいつでも訪問できるよう開放している。訪問時にはお茶などで接待している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアのために職員にマニュアルを使用し指導を行い、職員の意識を高めている。 | | 研修参加の機会の充実 |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関は夜間以外開放されており、居室についても日中は本人の希望がない限り開放されている。二階階段の鍵については家族に根拠を説明した上で施錠を行っている。 | | |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 常に見守り、状況の把握に努めて安全に配慮している。ココセコム(現在位置情報サービス)を利用して自由な散歩を行う方もいる。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 利用者の状態に応じた物品の保管、管理を行っている。刃物は日中と夜間別の場所に保管するなどして危険を防いでいる。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 知識を学ぶ研修の機会が少ない。 | | 救急救命などの研修の機会を増やしていく。転倒など事故発生したときは職員間で防止に向けて会議を開催していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|---|---|-----|----------------------------------|
| 70 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 定期的には行っていない。 | | 訓練を定期的に行う |
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 防災避難訓練を実施し、火災発生時の対応マニュアルを作成し、掲示している。防災訓練時には近隣の方々に協力していただいている。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 家族と定期的に、必要都度十分に話し合っている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 個々の状態について個別に記録しており、申し送りや重要事項については別に定めたノートを使用し情報の共有をしている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬については薬局より渡されている説明書を個人別にファイルして保存して全職員が用法、用量について理解できるようにしている。 | | |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 野菜中心の食事、ラジオ体操や散歩などによる運動を促すなどしている。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 朝食、夕食後に歯磨き、義歯消毒等、口腔ケアを行っている。 | | 昼食後、特に必要である方に口腔ケアの実施。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|-----|----------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量を確認、記録をし、個々に合った食事形態、管理を行っている。食事摂取時の環境整備をし自力摂取しやすいよう支援している。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染症対応マニュアルを作成し、実行している | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 衛生管理マニュアルを作成し、実行している。地元の野菜や近海でとれた魚をとりよせている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 日中、玄関を開けて開放的にし、玄関周りや庭は花で飾られている。安全のため玄関のスロープに手すりを設置した。 | | |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには季節の花を飾るようにするなどして利用者にとって適度な生活音になるよう配慮している。 | | |
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファなどを配置し好きな場所を自由に選べるようにしている | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 私物の持込の制限なくできるだけ馴染みのものを持ち込むよう促している。 | | |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | こまめに職員が換気等を行っている。土地柄風通しがよく自然の換気ができている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 必要などころには手すりを追加して設置するなどして自立した生活が送れるよう工夫している。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 一人ひとりの理解力に合わせた言葉かけや混乱などを招かないよう利用者同士の相性に配慮するなど対応をしている。 | | |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 庭は園芸療法の活動の場になっており、花壇は季節の花で飾られている。機会を見て利用者は花をみて楽しんでいる。ベランダにも園芸療法の活動で作った寄せ植えが置かれている。 | | |

・サービスの成果に関する項目

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 |
|-----|--|-----------------------|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ほぼ全ての利用者の |
| | | 利用者の2/3くらいの |
| | | 利用者の1/3くらいの |
| | | ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 毎日ある |
| | | 数日に1回程度ある |
| | | たまにある |
| | | ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ほぼ全ての家族と |
| | | 家族の2/3くらいと |
| | | 家族の1/3くらいと |
| | | ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 |
|-----|---|-----------------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ほぼ毎日のように |
| | | 数日に1回程度 |
| | | たまに |
| | | ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 大いに増えている |
| | | 少しずつ増えている |
| | | あまり増えていない |
| | | 全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | ほぼ全ての職員が |
| | | 職員の2/3くらいが |
| | | 職員の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての家族等が |
| | | 家族等の2/3くらいが |
| | | 家族等の1/3くらいが |
| | | ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「ゆっくりのこころ」を理念に掲げ、利用者個々の生活ペースに合わせたケアが実践されている。ケアの中で季節感のある食事や干し柿作り、雛祭り等認知症の利用者が分かり易い昔ながらの生活慣習を取り入れている。健康面では積極的に散歩や買い物など外出による生活リハビリを促したり、野菜を多くとり入れた食事作りを行っている。園芸療法の活動を通して日々草花に接することで季節感を感じ、またボランティアや学生などと触れ合う楽しみを持っている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| ・理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を实践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を实践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| ・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| ・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| ・サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|--------------|
| 事業所名 | グループホーム花樹 |
| (ユニット名) | 二階 |
| 所在地 (県・市町村名) | 神奈川県藤沢市柄沢372 |
| 記入者名 (管理者) | 長尾 敏明 |
| 記入日 | 平成20年7月8日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------|--|---|-------|----------------------------------|
| ・理念に基づく運営 | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | |
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域の雰囲気を大切にし調和のとれた生活が送れるよう「ゆっくりのこころ」という理念を掲げている。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 全職員に代表者が個別に理念を配布、説明、理念の共有をしている。さらにいつも目にする玄関入り口に基本理念を貼ることで職員の意識を深めている。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 定期的に家族会、運営推進会議を開き、深めてもらえるよう取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | |
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 散歩などの機会に近隣の人達と挨拶し気軽に話ができている。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会、地域の清掃活動、防災訓練等に参加するなどして交流に努めている。ゴミステーションを敷地内に設置し地域に貢献している。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 村岡地区の公民館で社会福祉協議会等の方々と災害時における高齢者救護策について意見交換実施。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員が自己評価を行うことにより意識向上につながっている。外部評価の結果を職員全員が閲覧し、よりよいホームにするため改善策も早急に対処していけるよう取り組んでいる。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議で出た意見は会議及び連絡ノートで、職員の周知徹底を図り、話し合いの機会を設けている。 | | |
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 管理者等が市町村に行く機会を作ったり、相談するなどしながらサービスの質の向上についても話し合いをするなどしている。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 職員全てが理解できているか再確認する必要がある。 | | 意識を高めるよう研修、会議などの充実を図る。 |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日々職員間で話し合い防止に努めている。 | | 虐待防止のための研修、勉強会へ積極的に参加していく。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|---|------|----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | <p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | 十分説明を行い理解、納得を図っている。変更時にも十分説明している。 | | |
| 13 | <p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | 苦情申し立ての機関を重要事項に明記し、契約時に説明をしている。 | | |
| 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | 家族会やご家族の来訪時、利用者の状態の変化に応じて随時報告している。 | | |
| 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | 苦情申し立ての機関を重要事項に明記し、契約時に説明をしている | | |
| 16 | <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | 日々の申し送りや全体会議等の場にて運営者や管理者は積極的に職員の意見を聞くよう努めている。 | | |
| 17 | <p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | 利用者の状況の変化に応じて職員の勤務時間を変更するなど可能な範囲内での勤務調整に努めている。 | | |
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | 離職者や産休中の職員が気軽に遊びに来るなどしてもらおうようにして、異動や離職によるダメージを防ぐよう配慮している。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|-----|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各研修案内を随時提示し、職員へ参加を呼びかけているが参加の頻度は高いとはいえない。各職員の資格取得への意識が高く、職場としてもシフトを優遇するなど協力した。結果新たに介護福祉士3名、介護支援専門員2名、社会福祉士1名誕生した。 | | |
| 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域のグループホーム連絡会に定期的に参加し交流しており、情報共有、研修会に職員が参加するなどしてサービスの質の向上を図っている。 | | |
| 21 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 運営者はまめに管理者や職員とコミュニケーションをとるなど話し合いの場を設けている。 | | |
| 22 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 管理者や職員に対し、自ら集めてきた研修の情報などを積極的に周知し、参加促している。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 事前面接や体験入居を通して本人の訴えや不安を受け止める努力をし、安心して利用してもらうよう努めている。 | | |
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 相談時から事前面接の機会等にて家族の不安、求めていることに対し、親身に受け止め信頼関係を築くことができるよう努めている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|-----|----------------------------------|
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族の要望を聞き、在宅介護、グループホーム、またはその他社会資源で何が必要であるか、客観的に見極め対応し、必要時他のサービスを勧めたり、紹介することもある。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人に事前面接にて説明、納得してもらい、さらに体験入居をしてもらうことにより雰囲気馴染んだ上で利用を開始してもらうよう配慮、工夫している | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日々の生活の中で一緒に食事を作ったり、掃除をしたりなど、職員と利用者が共に生活を支えているという関係づくりができている | | |
| 28 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 利用者本人がグループホームで落ち着いて楽しみのある生活を送れるようまめに面会に来てもらったり、受診を支援してもらうなどして職員と共に支えあう関係を築いている。 | | |
| 29 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 本人や家族から細かい生活歴などの情報収集をし、本人や家族だけではなく、友人、親戚などとの関係にも理解を深めるよう努めている。 | | |
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人や家族とのコミュニケーションを通して馴染みの人や場所への理解を深め、継続できるよう支援している | | |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 利用者同士の相性、個性を把握し、孤立しないよう意識し、努めている。 | | 個々の利用者同士のトラブル防止の解消に努めていく |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|-----|----------------------------------|
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | サービス終了後も面会に行ったり、電話などにて相談に応じるなどして断ち切らないつきあいをし関係を継続している。 | | |
| ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活において常に本人の意思、希望を優先したケアを行っている。体調や疲労感も配慮している。 | | |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の事前面接にてアセスメントを行い、生活歴、生活環境、サービス利用の経過等把握するよう努めている。 | | |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 個々の利用者ごとに一日の様子を記録し、申し送りや連絡ノートを活用などにより職員間で情報の共有を図っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人、家族の意向を十分に取り入れた介護計画を作成している。 | | |
| 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 期間終了、状態変化に合わせて随時見直し、説明をして同意を得て交付をしている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|---|---|-----|----------------------------------|
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々の利用者ごとに一日の様子を記録し、さらに日々の中で職員が気づいた点を連絡ノートに記録して情報を共有し、それを集約し介護計画に反映させている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 事業所グループ内のガーデンデザイン専門学校、小規模多機能施設と連携をとっている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 民生委員、ボランティア、警察、消防などと協力しながらグループホームを運営している。ボランティアではアロマセラピーやハーモニカ演奏、園芸等で協力・活躍してもらっている。 | | |
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 地域のグループホーム連絡会の場で話し合いをしている。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 現在、協働できていない | | 地域包括支援センターと協働できるよう努めていく |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 往診医療を取り入れ受診援助を行っており、緊急時にも主治医の指示を仰ぐことのできる体制をとっている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|--|---|------|----------------------------------|
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 主治医と相談し、必要のある利用者には専門医の受診援助を行っている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 定期的に看護師がホームにて日常の健康管理等支援している | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | マメに見舞いに行くなどして病院職員、家族との情報交換や相談に努め不安を感じないよう支援している。 | | |
| 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 契約時より重度化した場合での本人、家族の希望について話し合いをしている。利用者の状態変化時にも主治医、家族、本人と話し合いをしている。職員間でも全体会議の場を通して終末期ケアに対するホームの方針を共有している。 | | |
| 48 | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 主治医、看護師との連携を密にしながら往診の数を増やすなど柔軟な対応をとり状態の変化にも対応できるようにしている。 | | 会議などの話し合いの場を増やして職員の意識を高めていく。 |
| 49 | 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 転居時には関係者間で話し合いや情報交換を行い、ダメージを防ぐよう努めている。 | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|----------------------------------|
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけ、対応をし、記録等もプライバシーに配慮した取り扱いをしている。 | |
| 51 | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 常に利用者の希望を聞き、個々に応じて可能な限り対応している。 | |
| 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者個々のペースを大切に、希望にそった日々を送ることが出来るよう支援している。 | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 家族対応や職員付き添いで美容院へ行ったり、訪問美容を受けるなど支援している。 | |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員と利用者が庭で育った野菜と一緒に収穫し、食事を作ったり、片付けなどしている。 | |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 飲み物、おやつは対応しているが、たばこ、お酒は好まれる方がいない。一緒に買い物へ行きおやつなどを選んでもらったりしている。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄パターンを把握し声掛け、誘導などを工夫するなどして対応し、オムツの使用を極力減らすよう努力している。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人の希望に合わせた入浴時間で実施している。また入浴できない時は清拭や足浴を行い、清潔保持に努めている。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 本人の意思により自由に居室に出入りし、睡眠や休息をとることができるよう支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 日々の中での仕事をなるべく利用者が積極的に参加、分担できるよう支援している | | |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人、家族と相談し、本人の管理可能な範囲内で所持、使用されている | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 施設周辺の散歩、買い物、ドライブなど日常的に外出できるよう支援している | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 個別的に相撲観戦や歌舞伎などの観賞を支援したり、家族と一緒に外出できるよう働きかけたりしている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|---|-----|---|
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人から希望はあまり聞かれないが年賀葉書、暑中見舞いの葉書などは出している。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 日常的にいつでも訪問できるよう開放している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアのために職員にマニュアルを使用し指導を行い、職員の意識を高めている。 | | 研修参加の機会の充実 |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関は夜間以外開放されており、居室についても日中は本人の希望がない限り開放されている。二階階段の鍵については家族に根拠を説明した上で施錠を行っている。 | | |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 常に見守り、状況の把握に努めて安全に配慮している。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 利用者の状態に応じた物品の保管、管理を行っている。刃物は日中と夜間別の場所に保管するなどして危険を防いでいる。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 知識を学ぶ研修の機会が少ない。 | | 救急救命などの研修の機会を増やしていく。転倒など事故発生したときは職員間で防止に向けて会議を開催していく。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 70 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 定期的には行っていない。 | | 訓練を定期的に行う |
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 防災避難訓練を実施し、火災発生時の対応マニュアルを作成し、掲示している。防災訓練時には近隣の方々に協力していただいている。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 家族と定期的に、必要都度十分に話し合っている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 個々の状態について個別に記録しており、申し送りや重要事項については別に定めたノートを使用し情報の共有をしている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬については薬局より渡されている説明書を個人別にファイルして保存して全職員が用法、用量について理解できるようにしている。 | | |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 野菜中心の食事、ラジオ体操や散歩などによる運動を促すなどしている。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 朝食、夕食後に歯磨き、義歯消毒等、口腔ケアを行っている。 | | 昼食後、特に必要である方に口腔ケアの実施。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量を確認、記録をし、個々に合った食事形態、管理を行っている。食事摂取時の環境整備をし自力摂取しやすいよう支援している。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染症対応マニュアルを作成し、実行している。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 衛生管理マニュアルを作成し、実行している。地元の野菜や近海でとれた魚をとりよせている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 日中、玄関を開けて開放的にし、玄関周りや庭は花で飾られている。安全のため玄関のスロープに手すりを設置した。 | | |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには季節の花を飾るようにするなどして利用者にとって適度な生活音になるよう配慮している。 | | |
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファなどを配置し好きな場所を自由に選べるようにしている | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 私物の持込の制限なくできるだけ馴染みのものを持ち込むよう促している。 | | |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | こまめに職員が換気等を行っている。土地柄風通しがよく自然の換気ができている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 必要などころには手すりを追加して設置するなどして自立した生活が送れるよう工夫している。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 一人ひとりの理解力に合わせた言葉かけや混乱などを招かないよう利用者同士の相性に配慮するなど対応をしている。 | | |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 庭は園芸療法の活動の場になっており、花壇は季節の花で飾られている。機会を見て利用者は花をみて楽しんでいる。ベランダにも園芸療法の活動で作った寄せ植えが置かれている。 | | |

・サービスの成果に関する項目

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 |
|-----|--|-----------------------|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ほぼ全ての利用者の |
| | | 利用者の2/3くらいの |
| | | 利用者の1/3くらいの |
| | | ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 毎日ある |
| | | 数日に1回程度ある |
| | | たまにある |
| | | ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ほぼ全ての家族と |
| | | 家族の2/3くらいと |
| | | 家族の1/3くらいと |
| | | ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 |
|-----|---|-----------------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ほぼ毎日のように |
| | | 数日に1回程度 |
| | | たまに |
| | | ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 大いに増えている |
| | | 少しずつ増えている |
| | | あまり増えていない |
| | | 全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | ほぼ全ての職員が |
| | | 職員の2/3くらいが |
| | | 職員の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての利用者が |
| | | 利用者の2/3くらいが |
| | | 利用者の1/3くらいが |
| | | ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての家族等が |
| | | 家族等の2/3くらいが |
| | | 家族等の1/3くらいが |
| | | ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「ゆっくりのこころ」を理念に掲げ、利用者個々の生活ペースに合わせたケアが実践されている。ケアの中で季節感のある食事や干し柿作り、雛祭り等認知症の利用者が分かり易い昔ながらの生活慣習を取り入れている。健康面では積極的に散歩や買い物など外出による生活リハビリを促したり、野菜を多くとり入れた食事作りを行っている。園芸療法の活動を通して日々草花に接することで季節感を感じ、またボランティアや学生などと触れ合う楽しみを持っている。